

中部青年技術士会 持続可能な交通を考える WG (WG - TMO) の活動報告

The Activity Report on the Working Group “Traffic Management Orchestra” in Chubu Branch

幡野貴之 (建設)

The WG-TMO has been established for aiming to realize a sustainable transport society using theoretical and practical aspects by the voluntary professional engineers in 2002. Our main activity is to create a board game for understanding the smart use of a car and the ways to save our planet.

持続可能な交通を考える WG (WG - TMO)は、中部青年技術士会会員のうち持続可能な交通環境の実現を目指す有志が技術専門家の立場で理論面・実践面から検討する理念のもと 2003 年 2 月に設立されました。我々は技術者の使命である「専門性」を活かし、「誰にでも実行可能な」環境にやさしい交通社会の実現を目指し鋭意活動しております。

社会の成熟とともに人々のライフスタイル(life style)は絶えず変化しています。「交通(transportation)」は現代社会において不可欠な要素であり、そしてこの交通から派生する環境問題は人為的な環境負荷の主因でもあります。交通工学はこれら交通問題を総合的に決するためのツール(tool)ではありますが、そこに要求される意味合いは「いかに作るか(how to create)」よりも「いかに使うか(How to use)」にシフト(shifting)しています。これは交通財利用者の要求のみならず、その研究者にも求められる姿勢であり、高度な専門技術を「楽しく(funny)」「分かりやすく(understandable)」伝えることが不可欠となっています。

WG - TMO ではこのような背景を鑑み、専門知識を可能な限り駆使しつつゲーム理論(game theory)を応用した、交通に関する社会的ジレンマ(social dilemma)を理解しやすくかつ体感できる簡易ボードゲーム(simplified board games)を開発しています。これらゲームを通じて市民の交通行動を環境的により持続可能なものへと啓蒙し、併せてその過程を記録し公表することで研究開発面での持続的発展をも目論むものであります。またこれらゲーム実施により、自動車利用に対する人々の態度変容とそれより波及する行動変容を促すことで持続可能な交通社会実現を目指しています。

これまでに WG - TMO が開発した、すごろくをベース(snakes and ladders based)にした交通ゲーム(traffic game)実演においては、参加者からは安易にかつ楽しく交通問題を実感できるとの意見をもらってはいます。さらにはこれに加え、身近な多くの人考える環境に対する姿勢を推測する多数派ゲーム(game of guessing the majority)なども開発し、行動変容をより確実なものへとしていく活動もしています。現在、WG - TMO の活動ならびに作成したいいくつかの交通ゲームを掲載した書籍を鋭意作成中です。

幡野貴之 (HATANO, TAKAYUKI) 技術士 (建設)

1966年埼玉県さいたま市出身。大学院修士課程終了後、大手製薬会社研究員、環境調査機関技術者を経て2003年に技術士登録。同年、大学院博士課程に入学し2006年修了。現在、中部TLO知財コーディネータ、名古屋大学産学官連携本部リサーチャーなど、産官学連携業務に携わっている。中部青年技術士会理事。博士 (環境学)。